

【巻末資料】 各部門の研修カリキュラム

社美協 漆部会研修

【1年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内容
①	技能者認定制度説明、文化財行政の仕組み、文化財保護の歴史
②	新規雇入時教育

漆研修（社美協研修）

○内 容：刃物の研ぎを行い、木篋、竹篋を作製し刻苧漆を飼い込む。

	内容
①	古研ぎ・叩き落とし・工具調整
②	木篋及竹篋作成
③	生固め調合及び作業・刻苧調合及び刻苧飼い込み

◆1年時に受講が必要な講習：

【部門共通】フルハーネス安全帯使用作業（特別教育）

【2年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅰ（古典的材料について：顔料、染料、漆、膠、布海苔）

漆研修（社美協研修）

○内 容：下地付を調合し、下地付けを行い、麻布を截ち麦漆で麻布を着せる。

	内 容
①	地の粉下地調合及び地の粉下地付け
②	布截ち・麦漆調合及び布着せ

【3年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅱ
②	建築史概論Ⅰ

漆研修（社美協研修）

○内 容：全ての下地付を調合し、木篋で下地付けを行う。

	内 容
①	地の粉下地調合及び地の粉下地付け
②	切粉下地調合及び切粉下地付け
③	切粉下地水研及び切粉固め
④	錆下地調合及び錆下地付け

【4年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	文化財補助事業の概要
②	建築史概論Ⅱ

漆研修（社美協研修）

○内 容：錆下地付を水研ぎし、中塗漆を漆刷毛で塗る。

	内 容
①	錆下地水研及び錆固め
②	黒中 1 回目塗及び繕い下地付け

【5年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	塗装概論（塗装の役割・漆の硬化の仕組み）
②	塗装技術史

漆研修（社美協研修）

○内 容：1 回目中塗を水研ぎし 2 回目中塗、中塗水研ぎ後上塗を漆刷毛で塗る。

	内 容
①	中塗 1 回目水研ぎ
②	中塗 2 回目塗り
③	中塗 2 回目水研ぎ及び黒上塗り

【6年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政

	内 容
①	塗装関係法規

漆研修（社美協研修）： 拭き漆研修

○内 容：手板（5種類）に古色、目止め等素地調整を施した後に拭き漆を3回施す。

	内 容
①	ガイダンス、素地調整、目止め（渋引、赤渋引、黒渋引、砥粉引き、錆付）拭き漆 1 回目
②	素地調整（あらし、錆研ぎ）、拭き漆 1 回目、2 回目
③	拭き漆 2 回目、3 回目 ※現場見学(座学を兼ねる)
④	仕上げ磨き（油、呂色粉） 講評会

※現場見学：実際の修理現場(拭漆施工のある京都周辺の物件)に行き、担当者の説明を聞く。

◆6年時に受講が必要な講習：

【部門共通】有機溶剤作業主任者・鉛作業主任者

【7年目】

漆研修（社美協研修）： 漆箔押し研修

○内 容：手板（塗立、胴摺の2種類）と彫り物1体に箔あかしをした金箔を2回押す。さらに漆にて箔養生する。

	内 容
①	ガイダンス、箔箒等道具の手入れ、箔あかし、箔押 1 回目
②	箔払い、箔押 2 回目 ※現場見学(座学を兼ねる)
③	生漆にて箔養生する 講評会

※現場見学：実際の修理現場(箔押し施工のある関東方面の物件)に行き、担当した人の説明を聞く。

【8年目】

漆研修（社美協研修）： 蠟色研修

○内 容：手板（黒、朱 2 種類の平面の手板と曲面の手板計4枚）の蠟色磨きをする。

	内 容
①	ガイダンス、炭研ぎ、胴摺り、捨て摺り
②	胴摺り、摺り漆
③	磨き、摺り漆、 ※現場見学（座学を兼ねる）
④	仕上げ磨き、講評会（仕上りの検討）

※現場見学：実際の修理現場(蠟色施工のある京都周辺の物件)に行き、担当者の説明を聞く。

【9年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	保存と活用
②	保存科学材料（修理に用いられる科学的材料及び技法）

漆研修（社美協研修）：上塗り（黒、朱、溜塗、白檀塗）研修

【開催場所 関東】

○内 容：手板（黒、朱、朱溜、白檀塗用の4種類の中塗の手板）に上塗りを施す。

	内 容
①	ガイダンス、中研ぎ、塗前、上塗り
②	講評会（仕上りの検討）、塗り直し
③	講評会（仕上りの検討） ※座学

※座学…テーマ：設計協力時等の初動検分の際の仕様検討について（講師は社美協上級技能者から選任）

【10年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	修理哲学
②	劣化について（カビ、紫外線、錆）
③	写真撮影技法

漆研修（社美協研修）：掻き落とし研修

○内 容：実際の建造物の劣化塗膜の検分および仕様検討後、掻き落とし、古研ぎをする。

	内 容
①	ガイダンス、仕様検討（調査の演習）
②	掻き落とし、古研ぎ
③	※座学

※座学…テーマ：設計協力時等の初動検分の際の仕様検討について（講師は外部設計監理者から招聘）

社美協 彩色部会研修

【1年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	技能者認定制度説明、文化財行政の仕組み、文化財保護の歴史
②	新規雇入時教育

彩色研修（社美協研修）

○内 容：修復作業工程の概要、材料、用具類の基本的な扱い方、下塗用顔料の調合と塗布。

	内 容
①	作業工程概要、材料・用具等取り扱い、顔料調合
②	膠の溶かし方、丹具の溶き方（団子、百叩き、溶解）、塗布
③	下塗胡粉の溶き方（団子、百叩き、溶解、塗布） 下塗絵具の溶き方（溶解、塗布）

○内 容：建築彩色を知る。材料、用具類の基本的な扱い。胡粉について知る。

	内 容
①	建築彩色とは（座学） 材料・用具等取り扱い(座学)
②	美術史概論（座学） 胡粉製造所見学
③	白色顔料について 白色顔料各種塗比べ実習

◆1年時に受講が必要な講習：

【部門共通】フルハーネス安全帯使用作業（特別教育）

【2年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論 I（古典的材料について：顔料、染料、漆、膠、布海苔）

彩色研修（社美協研修）

○内 容：簡単な縷網文様の模写及び見取図、型紙を作製し型押し。

	内 容
①	文様の現状見取り、型取り、清書図の作製
②	白描、型紙の作製・型押し
③	見取図の作製

○内 容：材料について知る。材料を大切に扱う事を体験する。

	内 容
①	美術史概論(座学)
②	材料について 見学 (金箔、和紙、筆)

【3年目】

共通座学 (全部門共通)

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅱ
②	建築史概論Ⅰ

彩色研修 (社美協研修)

○内 容：金箔・金泥の扱い方。

	内 容
①	手板作製 (箔押し用 3 枚、金泥用 4 枚)、箔ばし作製
②	金箔取り扱い
③	金泥取り扱い

○内 容：彩色技能者として基本的な技術の確認。斗組の纏縹彩色制作。

	内 容
①	型紙作成 胡粉叩き 型刷り
②	薄色
③	岩掛け 括り 評価あり (技術の確認を行う)

【4年目】

共通座学 (全部門共通)

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	文化財補助事業の概要
②	建築史概論Ⅱ

彩色研修（社美協研修）

○内 容：垂直面への緻密な置上作業。

	内 容
①	型押し
②	置上

○内 容：現場作業の安全な作業空間の作り方。

	内 容
①	養生実習 掻き落とし実習
②	表打ち実習（布海苔抽出を含む）
③	彩色のある建築史（座学） 現場見学

【5年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	塗装概論（塗装の役割・漆の硬化の仕組み）
②	塗装技術史

彩色研修（社美協研修）

○内 容：金箔の扱い方及び下色から仕上げ色の扱い方を理解し着彩の実習を行う。

	内 容
①	下塗、箔押し
②	箔押し・着彩
③	着彩

○内 容：垂直面への置上彩色。

	内 容
①	胡粉塗り 型摺り
②	箔押し・着彩
③	着彩

【6年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政

	内 容
①	塗装関係法規

彩色研修（社美協研修）

○内 容：伝統技法への探求、腐れ胡粉と腐れ丹具を作る。

	内 容
①	伝統技法の習得、丹青指南を読む
②	腐れ胡粉の作製
③	腐れ丹具の作製

*腐れ胡粉は、8年目に曝露試験用の手板で使用。9年目と10年目に経過観察を行う。

◆6年時に受講が必要な講習：

【部門共通】有機溶剤作業主任者・鉛作業主任者

【7年目】

彩色研修（社美協研修）

○内 容：彩色文化の東西の違いを感じる。京都の職人と日光の職人が絵具を入替え、見取図を描く。関東の技法と関西の技法、関東の絵具と関西の絵具の違いを知る。

	内 容
①	絵具、技法の地域性を学ぶ
②	関東の技能者が、京都の絵具を使用して見取図作製。 関西の技能者が、関東の絵具を使用して見取図作製。
③	〃 双方の見取図の検証

見取図の図柄や配色はすべて同じとする。霊獣と植物もしくは波など、2つの組み合わせが望ましい。

【8年目】

彩色研修（社美協研修）

○内 容：平彩色の完成度を上げる

	内 容
①	型紙作製 連続文様彩色手板を立てて、彩色を行う（60cm×20cm）
②	〃 （6年目で作った腐れ胡粉を用いる）

【9年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	保存と活用
②	保存科学材料（修理に用いられる科学的材料及び技法）

彩色研修（社美協研修）

○内 容：高度な現場作業への挑戦

	内 容
①	文様の変遷について（座学） 生彩色 画題<唐草文様> 社美協が所有する模型の垂木間に彩色をする
②	型摺り 文様の彩色 （8年目で作った腐れ胡粉の経過観察）

【10年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	修理哲学
②	劣化について（カビ、紫外線、錆）
③	写真撮影技法

彩色研修（社美協研修）

○内 容：文様復元への取り組み

	内 容
①	復元予想図の作製（関西の文様を選ぶ）、資料集め
②	復元図作製 （8年目で作った腐れ胡粉の経過観察）
③	復元図作製（本や資料を参考に、インターネットを駆使しひとつの復元図を作り上げる）

社美協 剥落止め部会研修

【1年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	技能者認定制度説明、文化財行政の仕組み、文化財保護の歴史
②	新規雇入教育

剥落止め研修

○内 容：文化財保存修理（剥落止め）を理解する（その為に建築彩色・塗装を学習）

	内 容
①	保存修理とは（文化財修理の根幹である剥落止めの説明）
②	材料、用具について説明・剥落止め主要材料となる膠について学習
③	膠の様々な濃度の確認、吸い込み止めとしての髹水引きの説明 胡粉を溶いて手板に塗ってみる。（髹水引きの有無の検証）

◆1年時に受講が必要な講習：

【部門共通】フルハーネス安全帯使用作業（特別教育）

【2年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅰ（古典的材料について：顔料、染料、漆、膠、布海苔）

剥落止め研修

○内 容：接着剤として膠の学習と実施

	内 容
①	塗装概論、材料・用具について説明
②	膠の作り方（昔と現代）・様々な接着剤の説明
③	手板に塗り実習を行いながら、なぜ彩色塗膜が剥離・剥落するか検証

【3年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅱ
②	建築史概論Ⅰ

剥落止め研修

○内 容：絵具となる顔料と接着剤（膠ほか）の学習と実施

	内 容
①	文化財指定の現状、材料・用具について説明
②	様々な濃度の膠水と様々な粒度の顔料と溶き合わせ手板に塗り検証と確認
③	白黒色系・黄色系・緑色系顔料（胡粉・松煙・黄土・緑青）手板に塗り実習

【4年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	文化財補助事業の概要
②	建築史概論Ⅱ

剥落止め研修

○内 容：建築塗装（簡易彩色文様）の学習と実施

	内 容
①	建造物装飾技法史（例を挙げて学習）
②	膠を溶き、手板に胡粉を塗り簡易な彩色施工を学ぶ（転写、型摺り）
③	彩色が剥離剥落劣化を起こす条件を考察し不具合彩色を製作し検証

【5年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	塗装概論
②	塗装技術史

剥落止め研修

○内 容：建築彩色塗装のメカニズム学習と保存修理実施

	内 容
①	塗装関係法規概論・安全衛生概論（現場作業を意識して学習）
②	文化財指定装飾の現状・現場作業での注意点・養生作業の実習(施工現場養生)
③	布海苔抽出液作成実習・表打ち養生実習（作品養生）

【6年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政

	内 容
①	有機溶剤作業、鉛作業主任者講習
②	塗装関係法規

剥落止め研修

○内 容：建築彩色塗装の剥離・剥落はなぜ起こるのか検証と実施

	内 容
①	剥落止め序論・文化財指定装飾の現状・板状剥離模擬劣化彩色体調製実習
②	取扱い概論（保存と活用）・漆概論、漆塗りの損傷の諸相
③	板状剥離劣化塗膜剥落止め実習・膠の品質と物性

◆6年時に受講が必要な講習：

【部門共通】有機溶剤作業主任者・鉛作業主任者

【7年目】

剥落止め研修

○内 容：建築彩色塗装の劣化（経年及びカビなど環境検証）

	内 容
①	彩色技法概論、彩色の損傷の諸相、粉状剥離模擬劣化彩色体調製実習
②	日本絵画史概論・事例研究
③	粉状剥離劣化塗膜剥落止め実習、混色・重色概論、補彩実習

【8年目】

剥落止め研修

○内 容：剥落止めを考慮した建築彩色塗装の劣化を防ぐ方法と対策

	内 容
①	金箔と金泥・多様な剥離模擬劣化彩色体調製実習
②	接着と洗浄、洗浄実習
③	多様な剥離劣化塗膜剥落止め実習・養生実習（曲面表打ち）・洗浄実習

【9年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	保存と活用
②	保存科学材料（修理に用いられる科学的材料及び技法）

剥落止め研修

○内 容：文化財の在り方と保存修理を学習し活用を考える。

	内 容
①	剥落止めの沿革・修理のための合成樹脂、合成樹脂による剥落止め実習
②	修理哲学・合成樹脂除去実習
③	剥落止めの修理方針・写真撮影（記録）・損傷診断から修理仕様書作成

【10年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	修理哲学
②	劣化について（カビ、紫外線、錆）
③	写真撮影技法

剥落止め研修

○内 容：近年の修理技術の動向（化学分析など踏まえ）

	内 容
①	文化財の保存と環境、害虫及びカビの防除法
②	事例研究・膠と合成樹脂（その他、保存修理の可能性）
③	文化財の化学分析、近年の修理技術動向

社美協 単色塗部会研修

【1年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	技能者認定制度説明、文化財行政の仕組み、文化財保護の歴史
②	安全衛生管理

単色塗研修：

○内 容：養生及び掻き落とし・木地固め 実習（社美協模型使用）

	内 容
①	養生（飛散防止等）
②	掻き落とし 前匏・保護具の使用法
③	罨水引き、捨て膠、刻苧飼い

◆1年時に受講が必要な講習：

【部門共通】フルハーネス安全帯使用作業（特別教育）

【2年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅰ（古典的材料について：顔料、染料、漆、膠、布海苔）

単色塗研修

○内 容：胡粉下塗り・丹下塗り・黄土下塗り 実習（社美協模型使用）

	内 容
①	下塗り用材料調合 丹 胡粉 黄土
②	胡粉下塗り
③	丹・黄土下塗り

【3年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内 容
①	材料概論Ⅱ
②	建築史概論Ⅰ

単色塗研修

○内 容：胡粉上塗り・丹上塗り・黄土上塗り 実習（社美協模型使用）

	内 容
①	上塗り材料調合 丹 胡粉 黄土
②	胡粉上塗り
③	丹・黄土上塗り

【4年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	文化財補助事業の概要
②	建築史概論Ⅱ

単色塗研修

○内 容：各種顔料ほか

	内 容
①	赤色顔料についての検討・調合・塗装
②	岩絵の具についての検討・調合・塗装
③	チャン塗（油塗） 柿渋塗り

【5年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内 容
①	塗装概論
②	塗装技術史

単色塗研修

○内 容：施工上の諸問題について

	内 容
①	施工完了後の不具合について事例紹介
②	対応策について検討及びディスカッション
③	メンテナンス事例紹介

【6年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政

	内 容
①	有機溶剤作業、鉛作業主任者講習
②	塗装関係法規

◆6年時に受講が必要な講習：

【部門共通】有機溶剤作業主任者・鉛作業主任者

【9年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	保存と活用
②	保存科学材料（修理に用いられる科学的材料及び技法）

【10年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	修理哲学
②	劣化について（カビ、紫外線、錆）
③	写真撮影技法

社美協 鋳・金具部会研修

【1年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内容
①	技能者認定制度説明、文化財行政の仕組み、文化財保護の歴史
②	新規雇入時教育

金具研修：鋳金具の基礎知識 1

○内 容：鋳金具における歴史と意匠の変容

	内容
①	鋳金具概論 鋳金具の歴史（古代～現代まで①）
②	鋳金具の歴史（古代～現代まで②） 地域による意匠の変容と特色
③	痕跡から見る各種技法の検証、補修及び新調時の注意点

本研修では鋳金具とはどのようなものなのかという基本的な知識から時代ごと、地域ごとの意匠の変容を中心に、鋳職を生業とする上で必要な基礎知識を学習する。

実作業の根底となる知識を学ぶ機会であり、座学方式になるため、加盟事業者に対して平等な条件となるよう、外部から学識を持った講師に講義の依頼を提案する。

◆1年時に受講が必要な講習：

【部門共通】フルハーネス安全帯使用作業（特別教育）

【2年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内容
①	材料概論 I（古典的材料について：顔料、染料、漆、膠、布海苔）

金具研修：鋳金具の基礎知識 2

○内 容：素材ごとの特徴 工具 火器 薬品 各材料の適切な扱い方
現場作業時の適切な動き方

	内容
①	鋳金具における文化財修復実務 鋳金具に用いられる素材（種類・特性・扱い方）
②	安全・衛生実務（工具、火器、薬品等の扱い方・注意点）鑿について（素材の特性、加工、扱い方）

1 年目に学んだ基礎知識を基に、実作業を行っていく上での各種素材の知識、注意点を学ぶ。
 銑金具の取外しから工房作業、取付に至る一連の作業の中で各作業場や文化財修理現場に共通する注意
 点や危険予測行動を一般建築現場等と比較しながら学ぶ機会とする。

【3年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：技法・材料

	内容
①	材料概論Ⅱ
②	建築史概論Ⅰ

金具研修：銑金具の基礎知識 3

○内 容：作図 設計図の製作

	内容
①	銑金具の意匠について 拓本、作図、設計図の事例、制作方法
②	拓本 作図 設計図の製作

本研修は、銑金具を新調/補填する際、必ず最初に行う作業であり分業制、一貫生産性問わず各事業者
 必ず行っている作業である。また、その先の作業を左右する重要な工程でもある。

作図にあたり 1 年目で学んだ意匠や歴史、文化的背景を理解し、いかに図に落とし込むか、また金具
 の完成形を想像し、いかに他の部材と調和のとれたものに仕上げるかが重要になる。実例を基にした作
 図、設計図制作を通し、その工程の重要性や銑金具の意匠について改めて学習する機会とする。

【4年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内容
①	文化財補助事業の概要
②	建築史概論Ⅱ

金具研修：素材 部位に見る銑金具 1

○内 容：平物金具

	内容
①	平物金具の種類・地域別具体例 平物金具に用いられる素材及び特性 施工事例を基にした補修、製作の流れ

②	加工実習（切断、切削、研磨等に関わる工具を用いた実習）
---	-----------------------------

平物、半平物の金具を補修または新調する際の施工方法、注意点、材料の扱い方、主にみられる部位、異なる仕上げに伴う維持の方法等を、現存する金具や施工事例を基に学習する。

【5年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、歴史

	内容
①	塗装概論（塗装の役割・漆の硬化の仕組み）
②	塗装技術史

金具研修：素材 部位に見る鋳金具 2

○内 容：立体金具

	内容
①	立体金具の種類・地域別具体例 各種製作技法（鍛造、絞り、打ち出し等）の特性 施工事例を基にした補修、製作の流れ
②	鋳造の基礎知識
③	立体金具の製作に伴う工具の扱い方 各種溶接方法および火器の扱い方 加工実習（各種溶接、鑿、鉛、松やに等工具を用いた実習）

木口金具、六葉金具、唄金具等の立体金具における材料、技法の種類、接合方法に伴う溶接材料の選定方法、各種素材の特性等を学習する。特に火器を用いる溶接作業時の注意点などをガス溶接等の資格と合わせながら危険作業に伴う注意点や対策を学び、
また、鋳造金物の特性、補修制作工程、維持管理の仕方等鋳造についての基礎知識を習得する。

【6年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政

	内容
①	塗装関係法規

金具研修：素材 部位に見る鋳金具 3

○内 容：鉄金具

	内容
①	鉄の基礎知識（素材としての性質、加工方法・器具の扱い方、安全対策）表装方法（着色・各種塗装剤と防錆効果） 鉄金具維持管理について

②	加工実習
③	着色実習

銅や真鍮とは異なる「鉄」という素材の特性、扱い方から加工時の注意点、維持管理の仕方など、適切に説明、提案できるよう知識として学習する。

◆ 6年時に受講が必要な講習：

【部門共通】有機溶剤作業主任者・鉛作業主任者

【7年目】

金具研修：素材 部位に見る鍍金具 4

○内 容：着色 色上げ

	内容
①	施工事例から見る鍍金具の色上げ法痕跡から見る表装技法検証 鍍金具の表装に使用する水銀、硝酸、硫化カリ等劇毒物の特性 扱い方・作業時の環境作り
②	加工実習（水銀鍍金）
③	漆及び金箔の特性 加工実習（漆箔）

金具の色上げについて学習する。

特に水銀鍍金では、水銀や硝酸等の劇毒物を扱う作業の為、各材料の特性や扱い方、十分に対策をとった作業環境作り等安全面に重点を置いた講義内容とする。

また鉛や水銀取り扱いの資格と合わせ、より一層安全性のある研修の実施に配慮し、漆箔に関しては、素材への理解を深める為、社美協内の漆部門に属する会社からの講師依頼を提案する。

【8年目】

金具研修：素材 部位に見る鍍金具 5

○内 容：各種彫法

	内容
①	彫法の種類・地域別具体例 建造物の意匠と彫法の関係各年代から見る彫法の変遷
②	技法別にみる作業工程 使用工具加工実習

鍍金具の文様に用いられる蹴彫をはじめ、毛彫り、鋤彫り、打ち出し、地彫等全国の社寺建造物等に見られる彫法について各年代の彫の違い、意匠の変遷を学習する。

本実技においても地域間で偏りが出ないように考慮しながら講師を選定する必要がある。

【9年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	保存と活用
②	保存科学材料（修理に用いられる科学的材料及び技法）

金具研修

○内 容：日本における代表的な文化財建造物の補修方法～西日本～

	内 容
①	施工事例を基にした文化財建造物の保存修復法実地研修
②	実地研修

【10年目】

共通座学（全部門共通）

○内 容：安全・行政、技法・材料

	内 容
①	修理哲学
②	劣化について（カビ、紫外線、錆）
③	写真撮影技法

金具研修

○内 容：日本における代表的な文化財建造物の補修方法～東日本～

	内 容
①	施工事例を基にした文化財建造物の保存修復法実地研修
②	実地研修

9、10年目では西日本、東日本における代表的な文化財建造物の一つに焦点を当て、該当物件の修復実績のある加盟会社から特徴となる意匠や用いられた技術の説明、修復作業の流れや地域の気候、風土に合わせた材料、技術の選定方法、修復作業時に発生した問題点とその対処法等の説明を受ける機会を設ける。

各地に拠点を置き、地域に根付いた施工を行う社美協加盟各事業者にとって、互いに異なる地域の見識を深める機会とし、9年目及び10年目の2ヵ年を通し現代における文化財建造物の補修法を学習する。

*現時点の研修カリキュラムの内容は適宜見直し、改善を図ってまいります。
最新の内容は幣協会ホームページをご参照ください。



一般社団法人
社寺建造物美術保存技術協会

〒108-0014 東京都港区芝 44-5 三田 KM ビル 3 階
株式会社 小西美術工藝社内
TEL : 03-5765-1481 FAX:03-3455-9250

令和 4 (2022) 年 11 月発行